

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2025年9月1日 264号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

## レダにまた新たな生命！ 川久保安史・晋英さん家庭に第二子



去る7月17日、レダの川久保安史・晋英(くになえ)さん家庭に初めての赤ちゃんが誕生しました。男の子です。パラグアイ式に、「龍シオン(侍音)」と二つの名で命名されました。

出産に先立ち、晋英さんのお母さんが日本から駆け付けてくださり、初めて出産を経験する川久保夫妻にとって、大変強い味方となりました。

出産にあたっては、設備の整った首都アスンシオンの病院を選びました。

赤ちゃんのへその緒の状態を視た担当医師は、帝王切開を勧めましたが、晋英さんは自然分娩を強く希望し、家族や知人たちの祈りの中、赤ちゃんが元気に生まれてきました。

その後も、母子ともに健康状態は順調。7月21日、無事に退院しました。

レダの赤ちゃんは、去る3月13日に滝川哲盤・ジェシカさん家庭に誕生した澄奈ベティちゃんと、今回誕生した龍シオン君の二人となりました。神様



龍シオン君、すやすや。

の祝福を受けて誕生した二人の赤ちゃんが、創造本然のエデン、日陽園ですくすくと成長してくれますよう、そして恵み豊かな生涯を生きてくださいよう、お祈りいたします。

神様、レダとアスンシオンの皆様、世

界中の支援者の皆様に改めて感謝いたします。

❤️川久保さん自身による報告は別途掲載いたします。



水田理事と

## 政府の水害援助活動にレダが協力

【日陽園 岩澤春比古園長】

●長い大雨 レダを含む、パラグアイ北部、アルトパラグアイ県では、通常12月から2月が雨季であるが、今年は3月に入っても大雨が降り続けた。3月半ばからほとんどの公道、私道が冠水し、7月末まで道路が全く使えない状態が続いた。

●国の援助 そうした中、政府は海軍の最も古い軍艦をパラグアイ川で運行することを決定。カルメロペラルタ市からバイアネグラ市までの250kmを往復させ、地域の住民と食糧などの物資を無料で運ぶ水害援助活動を始めた。

海軍は4月初めから4カ月間で約2600人の地域住民が移動するのを助けることができた、7月末に公表した。実際私たちもこの期間、ガソリン、軽油、食料品などを運搬してもらい、大いに助けられた。

●海軍からの要請 このような地域への援助活動が始まる前、海軍の担当者から私たちに連絡があった。それは、飲料水を提供してもらえないかという要請であった。レダ周辺の村々に衛生的な飲料水はなく、軍艦にも限界があったため、よろしく願いますということだった。

●レダが援助活動に協力 それ以来、週に一度必ず軍艦がレダに立ち寄るようになり、私たちは2トンの水を提供するようになった。また軍艦のスケジュール上、どうしてもレダに停泊せざるを得ないことがあり、婦女子を私達の研修所に三度泊めることもあった。そのほとんどが初めてレダに来る周辺地域の先住民たちで、綺麗な部屋とベッド、トイレなどを使い、ゆっくり休むことができたことと皆大変感謝していた。

●海軍から謝意 4カ月にわたる水害援助活動が終わった後、軍艦の司令官がレダに立ち寄り、彼らの援助活動に私たちが気持ちよく協力したことに対して、心からの感謝を表していた。地域の為として国家の為に喜んで生きるというレダの真価が発揮された援助活動となった。■



被災したチャコ地方の人々や物資を無償で運んでくれた海軍の船。これが最後の運航。8月5日





●アクアモンド社からの来訪者たちを歓迎する夕べ。レダ大食堂、8月18日



神は大空を造り、大空の下と大空の上に水を分け... (創 1:7)



チャパボラの水産体験：養殖池でパクーの水揚げ。



島田兄妹が作った、川久保家への出産祝い。



●7月,8月の誕生日会。おめでとう！8月11日



●韓人移民60周年記念祭にて、島田ファミリー。旧国会議事堂前 8月15日



●浄水場の業務を山崎氏から実地で学ぶチャパボラ。



●体長2m以上の大きいアナコンダがいました。8月4日



●ディーゼル燃料(軽油)を運んできたタンクローリー。7月23日



●定期貨客船「ファティマⅢ(トレス)」から積み荷を下ろす。



# 橋爪オスカルさんに聞く アラポラ社の奮闘

以下、アラポラ社の経営責任者、に支えていく役割を担っています。

アラポラ社は、レダプロジェクトの一環として2024年、橋爪オスカルさんが中心となって立ち上げられた、ソーセージ工場を運営するパラグアイの会社法人です。

アラポラ社は、ソー

セージの製造・販売事

業を通して収益を上

げ、レダプロジェクト

の最終的な目標であ

る「天一国建設」とい

う大きな夢を経済的

に支えていく役割を担っています。



アラポラ(Ara Porã)社、在シウダ・デル・エステ。

アラポラ(Ara Porã)社、在シウダ・デル・エステ。レダプロジェクトとの最初の出会いは、2004年頃、友人である坂本さんから「レダプロジェクトのボランティアに参加した学生にソーセージ作りを教えていただけませんか？」と依頼されたことがきっかけでした。当時はプロジェクトについて何も知りませんでした。私1990年にトヨタの部品組立工場に出稼ぎに来ており、1年半勤務した後、1991年末には日本で外国人向けのソーセージ店をオープンしました。

## ①レダプロジェクトとの出会い

橋爪オスカルさんにインタビューしました。(8月7日、藤生輝彦)



アラポラ社の社員の皆さんと。右から2人目が橋爪さん。

その後、2012年に別のソーセージ工場を経営していた坂本さんから、家族全員でブラジルに移住したいので、彼の工場を引き継いでほしいと依頼されました。悩んだ末、2013年にその工場の工場長に就任することを決めました。

坂本さんの工場を引き継いだ後、その工場の責任者だった小橋さんを通じてレダプロジェクトに関わる赤澤さんと知り合い、本格的にレダプロジェクトに関わるようになり。その後、赤澤さんに誘われて日本で行われるミーティングに参加するようになり、レダプロジェクトへの関心が高まりました。

## ②アラポラ社設立までの道のり

そんな中、中田理事長から「パラグアイでソーセージ工場を始めようですか？」と打診されたことが大きな転機でした。当初は坂本さんや小橋さんが計画を進



めていましたが、さまざまな事情で自分の力も必要とすることでした。突然のことでしたのでなかなか決断できませんでした。

契機になったのは、中田理事長に誘われ、日本の工場の社長と共にパラグアイを視察したときでした。現場をみて「これは神様からの命令ではないか」と感じたのです。自分自身も南米で貢献できていなかったという思いもありました。家族や共同経営者と話し合いを重ね、日本での事業を完全に託して、パラグアイへの移住を決意しました。



スーパーマーケットに並ぶアラポラの製品を確認する橋爪さん。

ジを販売しようと思いました。しかし、実際に販売を始めると、価格設定が他のソーセージより高かったため、なかなか売れず苦勞しました。レストランや小売店に売り込んでも、「高い、高い」と言われてしまい、ほとんど売ることができませんでした。そこで、私たちは

はホーム販売に切り替え、同時に試食販売も積極的に行うことにしました。

店先で試食をしてもらうと、多くの方が「美味い！」と評価してくださり、どこで買えるのかと聞かれることが増えました。この反応に、私たちは大きな自信を持つことができました。ラ

## ③現在の事業と課題

しかし、現地に行ってみると当初の予定地だったランバレが工場設立に適さないことがわかり、計画が頓挫。その後、二転三転するなかで、現在のシウダ・デル・エステで会社を始めることになったのです。

事業開始当初、私は日本で成功したレシピを基に、パラグアイ在住のブラジル人向けにソーセー

してスーパーマーケットにも販路を拡大しましたが、依然として高い価格がネックとなり、売上が伸び悩んでいました。この経験から、価格競争力のある商品が必要だと痛感しました。損益分岐点を越えるには、月4000万グアラニーの売上が必要ですが、なかなか越えることができていないのです。(四面に続く)





# レダで生きている人々

時がたつのは早いもので私がレダに来てから、もう3年が過ぎました。今回は3年間のレダでの生活を振り返ってみて思っていることを共有したいと思います。

まず衣食住に関して、着るものは日本から持って来ます。食事は大食堂でいただきますが、食材は外部調達です。(一部、自給しているものもあります。)

住む部屋は、私の場合は一人部屋で冷暖房完備、一応プライバシーは確保されています。

次に仕事面です。浄水と電気の確保、及びネットワーク環境の保守メンテナンスを担当しています。

最後に生活面。よく医療や学校教育のことを言われますが、医療は病気やケガをしなれば不要ですし、小さな子供でなければ学校教育は不要です。ですの

く生活させていた

とありますが、現状レダの維持にかかる費用は、ほとんど全て日本等からの支援金で賄っています。水産の事業化が進んでおりますが、まだまだ規模が小さいのが実情です。

将来的には色んな産業を興す必要もあると考えます。

ということ、レダの魅力を生かした素敵な事業を思いついた方、アイデアレベルでも良いので共有していただければ嬉しい

です。(山崎茂章)

80トンタンクを中心とする修練所エリア(8月7日 午前8時頃)



## アラポラ社の奮闘(二面より続く)

そこで2025年1月頃、運転資金が厳しくなったこともあり、私は価格を抑えた新商品の開発に着手しました。

試行錯誤を繰り返して、1か月ほどかけて開発したのが、「ミッシェネロ」というソーセージです。この商品は、この地域で広く知られている同名のソーセージを参考に、価格を抑えつつ、脂分を多く含む特徴を活かして作り出した。結果的に、この新商品が市場に受け入れられ、今ではアラポラ社の売上の約98%を占める主力商品となっています。

ミッシェネロの課題としては、脂分が多いため、店内で電気鍋やホットプレートを使った試食販売ができません。試食をするためには、屋外でバーベキューのように炭火で調理する必要があります。このため、現在は店内で気軽に試食できる、脂分を抑えた新しいソーセージの開発を進めているところ

です。これが成功すれば、さらなる売上アップにつながる



アラポラの社員たちと、社屋の前にて。

がとを考えています。

### ④今後の展望

現在、新商品として、ハンバーグの生地としても使えるようなソーセージを開発しています。これは、パラグアイでは初めての試みです。ミッシェネロと同じ価格帯で、より多くの人に買ってもらえるような商品を作ることが今の目標です。また、売上目標である4000万グアラニーを……

この続きは当会のホームページでお読みいただけます。左のQRコードをタップし、264号にお進みください。



## 一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒182-0021

東京都調布市調布ヶ丘

2-15-1 ビリアベルデ 407

電話: 042-449-0183

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

e-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: https://asd-nsa.com

パンフレット: 当会の紹介と入会申込書  
https://asd-nsa.com/sk/ (←タップ可)

## パンタナール通信 電子版 (Blog)



- ♥韓国語 한국어
- ♥スペイン語 Español
- ♥ポルトガル語 Português
- ♥英語 English
- ♥日本語 にほんご

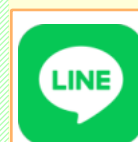


左のQRコードからどうぞ。ご感想送信、紹介パンフも。

## LINE公式アカウント

### レダの日常・日本の非日常

レダ現地の様子、プログラム・イベント通知・参加者募集案内などを配信します。



友だち追加はこちらから!